
終わる世界に最後の約束を

youmu7

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

終わる世界に最後の約束を

【Nコード】

N8974Z

【作者名】

youmu7

【あらすじ】

主人公 藤堂 亜紀（男）通称：俺だが、

ある日、同じクラス？の神崎から刀をもらう

厳密には返してもらった・・・かな？

その刀は俺の家の宝刀で……。え？俺こんな生活望んでないんだが？

その日から仲間が増えるわよくわからん理由で切られそうになるわ！俺の日常はもう戻ってこないんだ・・・そう、永遠に

序章〈終わりの時の猶予時間〉（前書き）

この小説は、初めて書いたので矛盾があると思いますw w
あと、けっこう定番ネタですよね。

暇なときなどにどうぞ！！　ちなみに結構長かったりするのかな？
でも大丈夫！毎回10話くらいで大体の話がわかる様にまとめるか
ら！！

あれ？・・・見る必要なくねw w　そんなことは気にせず！
ゆっくり楽しんでいってね！！

序章〈終わりの時の猶予時間〉

「俺の家には宝刀がある」って言えば何人が信じるだろう。だってそれは只の模造刀かもしれないのだ。

普通の人にはそんなの見分けがつかないだろうが、最初に言った通り

「俺の家には宝刀がある」

だが、この宝刀を巡って大きな戦争になるとは普通だれも考えない。

只の不幸だと、時期が重なっただけだと思いたかった。だが確実に俺だけを狙ってくる集団。

あげくに、味方さえ裏切るものが出る

どうしてこんなことになったのか・・・。

それを今から説明していこう

序章〱終わりの時の猶予時間〱（後書き）

序章・・・なんかな？プロローグの方がいいかな？どっちでもいいかw

うん、これだけだとわけわからんね！！

でも見ていけばきつと・・・！！

あらずじ、序章は多少の変更あるかもです！！

第1話〜終わりののはじまり?〜 (前書き)

サブタイ定番過ぎー!! WW

第1話〜終わりののはじまり？〜

自宅 自室

朝 - それだけで辛い、だって朝だぜ？眠いじゃん

「あきーそろそろ起きなさい」

とまあこんな感じにいつも通りなわけだが

しかし・・・。母さんも疲れないのかな？毎日同じ事して

小さいころはうるさいだけだったけど今では声を聞いているだけで落ち着く

そんなこんなで俺は布団からゆっくりと起き時計に目をやる

「7:00か・・・。しかし今日の気温3 てww馬鹿にしてるだろ」
そう特に朝が辛いのはこの為である。みんなもわかるだろ？

こんな寒い中なんで自転車で10分かかかる学校へ行かなきゃならないんだ。

しかしまあ近いんだよなあ〜それだけでも良しとするか！

7:10 着替え終了！いやあ着替えるまでってなかなか時間かかるよね？

寒い日に服を脱ぐとか・・・。ちくしょー！！着替えたて寒いよー！！

こんなやりとりを続けて5分無駄にした。

7:15 食卓にて ニュースによれば今日は快晴らしい
つてみればわかるよwwで今日は一日晴れ

「晴れでよかつたねえ」母さんが笑顔で言う

「まあ寒いからな、晴れでよかつたよ」父さんが言う

「でもさー。電車の中暑くね？」疑問を聞いてみたり

「それは人それぞれだがこれだけ寒いと逆に助かる」

父さんが質問に答える

とまあこんな日常が好きなんだよ

7:30 歯磨き完了！ゆっくりする時間もあったから今日は早め

に出るかな

いつもなら10分後に家を出るんだが今日くらいいいだろう
なんだって今日は快晴だからだ!!

最近曇りやら雨やらでじめじめしてたんだよねえ冬なのに
雪が降ったのは2日だけ曇りやら雨やらは5日

つまり一週間ぶりの晴れなのだ!!しかも快晴!!

これをテンション上がらずしてどうする!

7:31 登校中

じゃあさくつと学校の説明でもしますか

学校の登校時間は8時40分まで 遅刻したことはない

あとは普通だ。

7:40 学校到着 教室1-1 3階端

さてと着いたわけだが・・早すぎた。

やっぱり早いと教室だれもいねえ

と思ったら奥の席に誰がいる?

うーんだれだあれ?転校生かな?

「あゝ、転校生さんですか?」質問してみた

答えは

第1話〜終わりののはじまり〜 (後書き)

結構短めでいきます！

こつこつ終わり方って

続き気になっちゃいますよねー！

第2話〜災いの原点〜（前書き）

新キャラ+すべての始まりです！

ここからようやく戦いが動き出すんですね！！

誰がしゃべっているかはわかると思うので

省略させていただきます。

後々、つきますんでww

第2話〜災いの原点〜

「違います」へ???じゃあなんで学校にいんの？

あーちなみに黒髪ロング身長160くらいかな？あとはまあとりあえずだ・・落ち着こう。

多分あれだ！幽霊だ！！あーそう思うと気が楽になってきたぞとか考えつつも席に着く俺。それに転校生が近づいてきて

「私、あなたと元から同じクラスなんだけど・・。」

えへへ〜しまったww友達とかとはしゃぎまくってて

全然クラスの仲間顔おぼえてないやあ〜

「えっと・・すいませんでした！最近学校来ても寝てたり遊んでたりするから

全然クラスの人（男子以外）おぼえていませんでした！！」

まあ全力で謝るのは当然だよな？てか俺ひどすぎだろ！でも窓際の人の顔とか名前とかかって覚えにくいよねえ〜

「私の名前は 神崎 真帆 です」結構怒ってらっしゃる

「俺の名前は藤堂 亜紀です、しつてましたよねww」

「下の名前はしりませんでした」

「それが普通ですよww」

とこんなやりとりをしてもだれも来ない

7：45 教室

異変に気づいたのはそこら辺からだろうか、

まず外が暗い、いやちがうな外は青色・・。

へ？青色ってなんだよ！？あれか色つき下敷きでも貼られてるのか俺は？

でさっきの神埼はどこに？外か！？

?:??? グラウンド

その中心に彼女はいた。

しかし本当に神崎か？青いからかもしれないが・・

いや見間違いじゃねえなあいつ髪の毛白くなってやがる

神崎はゆっくりこちらを振り返る

落ちて着け俺、これは夢かもしれない下手に動けば寝ている俺が
変なことになる・・・。

「どうしたんですか？ まさか夢、とか思ってます？ふふふ」

夢じゃないのか！おっしや！！動いても大丈夫だ！！

あれ今声後ろから・・・でも神崎は動いていなかった・・・はず
なのに・・・なんで・・・おれ・・・横に飛んでんだ？

「ぐはあ」グキツつと鈍い音をたてて地面に叩き付けられた

どこも折れてはいなかったが言いながら心が折れたなww

「どうしたんですか？弱いですね あははは」

畜生笑いたいのはこつちだよ・・・。

どうする？近づく？逃げる？いや逃げるのは駄目だ

いいぜ、倒してやる！！

「やっとその気になりましたか」

神崎が刀を投げてくる。それは俺の前で落ち

「っ！？」俺はこの刀に見覚えがある

よく小さい頃に見たことのあるそれは・・・。

「それあなたの家の刀でしょ？」

そうだよ祖父からいわれていた

『その刀を抜いていいのは覚悟ができた人のみ！』

その時俺は・・・その刀を・・・抜いていた！！

「あはははやつぱあなたのだったんですね！！」

「だったらどうする？お前を切り刻めばいいのか？」

「怖いですよ、ただ私はその刀の持ち主を探していただけなのです
から」

「ならさっきのはなんだ？」そう攻撃のことだ

「あれはあなたをその気にさせるための唯一の手段ですわ」

「唯一？」

「そう時間がないのですよ、こちらにはほらもうすぐ結界も解ける。」

だからあなたに一つだけ言っておきます」

- その刀はあなた。その刀を手放すことは許されない -

第2話「災いの原点」(後書き)

新キャラ：神崎！ 初めは156cmだったんですがねww
グラウンド時、神崎の目は赤色です。通常は黒
色つきの下敷き(青)を言えば同じ体験できるかも？ww
ちなみに主人公に見た目の変更はなしwwかわいそうに・・。

第3話 敵か味方か (前書き)

第3話です！

また新しい人ですね

第3話〜敵か味方か〜

気づいたら机で寝ていた・・・。

と・・・とりあえず状況確認だな！えつと・・・12時？

あ・・・あれ！？学校来たの8時だったよな・・・。

あー。あの世界時間たつの早いわけか、なるほどお・・・。

だとしてだ、どうするよ？このまま寝てるか、授業を聞いてるか。

だがそんなことしてる暇はなさそうだwwチャイムなりやがったよ

お昼休み

まあアレだ昼食シーンなんていらぬよww

みんな食堂いくから、誰も残ってねーだろうな。

あれ？一人残ってる。同じ弁当組かな？

しかもすぐく見られてるんだが

あれか？刀の件か？うそーん、ならくればいいのに・・・。

あーはいはいいきますよーいくから睨まないでーすぐく怖いから！！

「で、なんの用なんだ？」まずこれ聞かないと始まんないからなww

「別に。」！？あれれ？間違えたわww気のせいかさうですか

「神崎」え？神崎？？

「神崎がどうかしたのか？」しかしなぜいきなり？？

「やはり知っていましたか」あはは・・・。トラップかよ！！

「知ってるが？」

「では早速・・・宝刀いただきますよ？」あーフラグの方ね理解

「あげませーんよ」なんか変なテンションでいっつちったww

「そうでなくては困ります」ですよねー

「ちよいまっ」ブオンの音とともに刀が振られる

教室の中には人が・・・、てか昼休みだからだれもいないんだつた

ww

しかも何？刀燃えてますよ？？つてよく見たら・・・剣じゃん！？
だがその炎は机を焦がさなかった。いわば飾りなんだろう

「死にます?」

「いやですww」

「では、しんでくださいっ!」

おかしいなww断つたら殺される、理不尽ですよ!!

「よけないでくださいよ、机切っちゃいますよ?」

「え?ちよいwwやめてw机はまずい」

「ならなんですか?教室でも切ります?」

「いやいやww切るな!まてやめろ!」

その時は教室切るとおもってた。。

けどちがった

そいつは。。

チヨークを折った。

「じみいいいいいい!!!!」

「え?なにがですか?」(´) エツ・・・? こんな顔

そんな顔でいわれてもwwかわいいじゃないか!

まあチャイムが鳴ったからいつものように授業の用意してたんだが

。。

来た あの世界だ

第3話〜敵か味方か〜（後書き）

ちなみにこの間の青の世界は結界です
刀を持つてる場合は青くならないです
ちなみに神崎も爆睡してましたww

第 話 補足 (前書き)

なんでこんなことに? など

自分でもわからないところの補足説明です

第 話 補足

- ・ 神崎の髪と目の色が変わったことについて

自分の宝刀でないものを持つとそれぞれの効果がでます

藤堂の宝刀は 髪を白、目を赤にする代わりに

攻撃の威力の増加、瞬間移動の使用ができる。

ただし自分に来る負荷はなかなかの物である。場合により吐血する

- ・ 爆睡について

神崎が夢ではないといったにも関わらず、なぜ寝てたのか。

これはいまいちよくわかってないのである。

- ・ 結界について

これは現実とは別の世界ということ

結界にはいくつかのパターンがある

1：中にいるものは現実では睡眠中である

(ただし時間経過の結界の場合のみ)

現在の登場はこれだけ

- ・ 神崎の結界について

これは時間経過の結界

時間が経つのが早いため注意が必要

- ・ 睡眠中の授業について

これはどうしようもない

ただ先生は起こそうとするであろうが

結界時は起きない。

ただし現実の体に問題が起きた場合は起きる。

- ・ 宝刀について

ある家族に元から存在する刀を宝刀と定めた

宝剣も登場したが、これも定められたもの

ちなみに模造刀も極稀に含まれる

- ・ 宝刀&宝剣の効果

藤堂の宝刀は現段階で

瞬間移動である

神崎と3話での新キャラは現在不明である

・宝剣の炎について

これは新キャラが持っていた物だが

現実ではただの飾りである。

結界内のみ効果あり

第 話 補足 (後書き)

とりあえずここまで

何かまだわからないことがあれば
感想の方でお願いします

第4話〜白熊登場!?!〜(前書き)

まさかチヨークをピンポイントで折れるとは・・・。
はっ！実はピンポイント攻撃ができるのか？

第4話〜白熊登場!〜

「神崎さんのでは時間が進むようですが…。私のは進みませんよ?」

「へえ…。ありがたいな」

「さっきの質問なんですけど」

「なんだ?」

「地味とはなんですか!?私がですか!そんなんですか!どうなんですか!」

「うん、落ち着こうねww」

「…。すいません。で、どうなんですか?」

「いやチヨーク折るのがですよ!、それとかわいいですよ!」

「最後のいらないですね」

「えー…。せつかく勇気でしていつてあげたのに」

ブウン またあの剣か

「ここじゃあ邪魔は入りませんよね?」

「いや、入るねww」

「え?どうやって、なんのために?」

「3, 2, 1, こい!」

「やつほー神崎ちゃんです!」ここから名前つきでいきます!

?「どうしたあなたが!」

神崎「しりませんよ 呼ばれただけですから」

俺「呼んだだけですから」

神崎「ねえ相坂さん?」

相坂「なんですか?」

神崎「よく人に宝剣みせますねえww」あつ……。っていう顔して
た てか見せたら駄目なのね

相坂「じゃあ消えてもらわなくては!」

俺「理不尽な世界だねえ」

相坂「なにもわかってないやつがいうな!!」

俺「すいません」

「お？さらになんかくんぞ？」

神崎&相坂『え??』

ドゴーン！ そんな音とともに・・・。

なんだこれ?・・・モンスターか？

神崎「え?え?なんでこんなんでくるわけ??わけわかんない!」

相坂「てかなんで来るってわかつたんですか!??」

俺「知らんがな」

?「クマアアアア!!!」

俺「なにもいえねえよ!てかなにいつてんだよ!叫ぶなよ!うるさいよ!!」

神崎「てか白熊?」

相坂「さらにぬいぐるみとはやってくれます!」

俺「どうすんのこいつ!かわいすぎだろwww」

神崎「とにかく倒しますよ!!!」

?「やめてえええええ」

俺&神崎&相坂『!?!』

?「やめてよう・・・別にまだなにもしてないよ?どうして攻撃するの?」

俺&神崎&相坂『・・・』 イヤ、サケンダジャーカ・・・。

神崎「離脱します!アデュー!」

俺「あ!こら逃げんな!!!・・・逃げられたwww」

相坂「私も離脱しますねえ でわ」

俺「ちよっ!??・・・で?クマさん・・・名前は?」てか俺一人でも世界は消えないのね。

というかどうやって抜けるんだ?この世界から

?「名前・・・?ないのでつけてください」

か・・・かわいすぎて死ぬ・・・。新手的攻撃か?

あ「ええ・・・とアリスでいいか?」

ア「はい！」

あ「でなにじにきた」

ア「お供です！」 マジ、ナンデサケンダノ？

第4話〜白熊登場!?!〜(後書き)

アリスの登場ですね!

なぜ人に宝剣・宝刀をみせては駄目なんでしょうね?

第5話〜日常世界の一端〜（前書き）

わかりにくいですが結界に出た後から少し経っています

第5話〜日常世界の一端〜

というわけで現実です

席替えしました！なんでよこが神埼なんだW

神埼「ねえねえ」

俺「なんだよ？」

神埼「結局あの後どうしたの？」

俺「なんかお供するってさ、ついてきたよ・・・。」

先生「そこ！！うるさいぞ！」

俺&神埼『すいません』

授業終了

怒られてからは普通にしてた。

神埼「しっかし・・・。どうすんのよ？」

俺「アリスの事はいいだる別に」

神埼「ちがうよ」

アリス「！！！」

俺「ん？うわつつ」「ブンッ

相坂「外しましたか・・・チッ」

神埼「お！やるの？じゃああの世界いつとく？」

相坂「いえ、もう済みましたので」「どっかいつちゃった・・・。」

俺「てか、アリスどこいった？」

神埼「え？いないの??W」

俺「ああ、ちよい探しに行ってくる」

神埼「どうぞどうぞ」

廊下

俺「おゝい！！相坂！！！」

相坂「うるさいですよ、なんですか？」

俺「アリス知らないか？」

相坂「はい？誰ですか？」

俺「ああ、熊だよ白熊」

相坂「あの子ですか・・・知りませんか？」

ん？・・・嘘か？いや、どっちだ？

攻撃されたときに相坂が盗んだか、攻撃後に神崎が盗んだか。

まあアリスが自分でどこかにいった可能性も・・・ジジツ 結界発動音

俺「あのさ・・・やつはお前なのか？」

？「・・・」違う・・・また新しいやつか！！

ブンツ ぎりでかわしたが・・・

？「ちよつとはやるようで・・・では、フルいきますよ！」

俺「は？」バンツ！！ 今の・・・なんだ？

？「あははは、ビビッテル！」てか周りが暗い・・・いつもの場所じ

やないだど！？

？「じゃあもつといくから！避けてね？」シュバババ

あゝ理解・・・銃器か、納得。だが見えない

てか、当たってない？いや、当たってないのか・・・。

？「さすがに不利なままは可哀想だね、」そこは・・・どこだどこ？

俺「おい・・・ここ、どこだよ？」

第5話〜日常世界の一端〜（後書き）

まさかの新結界登場ですね

この結界の特徴はなんでしょう？

と、その前に銃器の登場！

宝刀持ちか宝剣持ちか・・。

どっちでもないのか！？

第6話〜白熊（アリス）戦とその後〜（前書き）

すいません！時間あげすぎましたww
今日からちゃんとしみます！

第6話〜白熊（アリス）戦とその後〜

アリス「知らないんだあwここはアリスの世界なんだよ？」

俺「なるほどな・・・畏というわけか。」

アリス「畏？違う違うw」こいつ・・・

俺「いいぜ・・・お前も宝刀狙いだろ？」

アリス「気づいてましたか」今なんだけどねww

俺「ならさっさと終わらす・・・つて、誰だよお前？」

アリス「???アリスですよ？」

俺「アリスは白熊だ・・・だがお前人間だろ？」しかもゴスロリ

アリス「アリスは化けていただけなのです」

もうひとつわかったことがある・・・。銃器だけじゃない、鈍器もありやがる。

アリス「では、ショータイムですよ!!」

俺「っ!？」パンツ!

「おいおいSGは反則じゃないか？」SG=ショットガン

アリス「ハンデですよ、早く刀抜いてくださいよ」

俺「・・・抜いてるが？」

アリス「え？抜けてないですよ??」

俺「はあ、武器の特性・・・奪うなら覚えて来い」ちなみに特徴

については神崎が教えてくれた

ドンツ チョイ反則だが・・・しかたないよね？

「後ろからは・・・反則・・・です・・・。」「悪い

一応説明しておくか、宝刀にはそれぞれ特徴がある、俺のは加速。

まだあるらしいけどね

多分感知能力もあると思う。アリスのは、偶然ではなさそうだしな

現実

神崎「でー、なにしてたの？」

俺「はい？」

神崎「さつきまでいなかったじゃん！」

俺「ああ、アリス探してた」アリス結界も時間経過なし

神崎「見つかったの？」

俺「おう、カバンの中に居た」

神崎「でもカバン見てたよね？」

俺「ああ、奥の方に居たみたいでさ……。」

相坂「まったく失礼な人です」

アリス「!!!」

俺「起きたかw」

神崎「おはよー」

俺「もしかして、相坂嫌われてる？w w」

相坂「え？」

ア「そんなことはないですよ？」

俺「よかつたねえ〜。」

相坂「なぜ私が嫌われてると？」

俺「だって、タイミングが……。」「……あばば、剣危ないです。

周りの人見えてないのかな？

「ごめんなさい。本当になんでもないです。はい」

ああ、剣をなおしてくれた

俺「で、さつきのはな……。」「ジジッ

第6話〜白熊（アリス）戦とその後〜（後書き）

アリス戦短いww

全体的に戦闘パート短いですね・・・。

宝刀などの詳しい事はまた次の補足でやります！

第7話〜一日終了〜（前書き）

やっと一日が終わりますね
あ、次補足です

第7話〜一日終了〜

ふざけてる・・・てか今の、いつもよりひどいぞ？

アリス「ちよっと！ばらさないでください！」

俺「すまん・・・でもやり方があんだろ」

アリス「緊急事態でしたから！！ちなみに正体ばらしたら怒ります！！」

俺「怒るだけかよ・・・」かわいいな、

「おっと。で、お供つてのは嘘か？」

アリス「え？嘘じゃないですよ？」

俺「なるほどさっきの戦いは力試しか。その擬人化も結界内だけか？」

アリス「違います。でも無闇に使わないほうがいいと思ひまして」

「あとこれがアリスの武器です！」

えっと・・・銃器、鈍器、刀か

俺「ん？この刀だけなんか違うな」

アリス「それが私の本当の武器です」

俺「なるほどね」刀はオレンジ色に発光している

「じゃあもう、もどるぞ？」

アリス「はい！」

俺「しただけど」で、さっきの・・・の続きから

神崎「さつき？」

俺「ああ、アリス。なんでカバンの中にいたんだ？」

アリス「え？だって次体育ですよね？」

俺「え・・・？あ、違う違うww今日は保険だww」

アリス「え！？すみません！！」

神崎「大丈夫だよ、ちよっとあせつたけどww」

放課後

俺「さて、アリス。帰ろうか」

神崎「え!？」

俺「なんだよ・・・。」

神崎「家につれて帰るの?」

俺「普通だろ? アリスもそれでいいよな?」

アリス「はい!」

俺「ということ帰るわ。じゃあな」

神崎「大丈夫かなあ・・・。」

相坂「何をそこまで心配しているんですか?」

神崎「ん?なんか裏がありそうだなあ〜って」

相坂「あいつの事は知りませんよ。さあ私たちも帰りましょう」

神崎「そうだね。悩んでも仕方ないもんね」

自宅

俺「ただいま〜・・・って誰もいないか。」靴ないもんな

自室

俺「よし、もういいぞアリス」

アリス「はい、よいしょ」

俺「しっかし、お疲れ様。2時間はきつかっただろ」

アリス「そうですね、でも寝てたので大丈夫です!」

俺「寝てたのかよw」 暇だもんな

「そーいや飯とかどうすんだ?」

アリス「擬人化時はお腹すきますがこの状態なら大丈夫です」

俺「そうか・・・。」

その数分後親が帰ってきた

自室 就寝前

いろんな事とばしたけどまあいいだろう

俺「アリス〜どこで寝る?」

アリス「普通でいいです」

俺の家はベッドではなく布団派です

俺「普通か・・・。じゃあ横?」

アリス「はい、それで大丈夫です」

そつとつ眠たいらしいな

第7話〜一日終了〜(後書き)

長い一日ですねw

第 話 補足 (前書き)

今回は宝刀の詳しい説明などですねw

第 話 補足 2

結界の新種類

1、時間を経過しない結界について

時間を経過しない代わりに別の宝刀所持者に介入されやすいさらには結界内の所持者の力を下げる。

2、場所変更可能結界について

これは時間経過無し・力を下げることもない介入されない。と普通の結界なのだが発動するまでが長く、発動したあとが短い、即効性に欠ける

宝刀・宝剣について、パート2

現実時宝刀・宝剣について

現実での宝刀剣は所持者以外見えず宝刀剣自体が粒子になっているためわざわざ持ち歩く必要がない

現実時の威力・能力について

- ・威力は半減するが斬ることは出来る
- ・能力に変化はない（一部例外有り）

宝刀剣の発光について

- ・パートナーとなる人物がそばに居る場合

共鳴して発光する。色は持ち主の好きな色にできる

アリスの能力について

- ・擬人化能力

これは宝刀の力だと思われるが実際不明である

ぬいぐるみ状態だと斬られても無傷

擬人化時の体力は普通であるが

ぬいぐるみだと半分である。

神崎と相坂の関係について

現在では友達と思われるがパートナーとも考えられる
パートナー制について

宝刀剣の所持者間で能力を共有できる

パートナー選別に制限はないが

能力や仲が良い人と組むのがいいだろう

第 話 補足 2 (後書き)

次の補足は15部です！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8974z/>

終わる世界に最後の約束を

2012年1月3日18時47分発行